2017.3.10.

おーい図書館 No.189
発行 おーい図書館
代表 青木 和子
松戸市牧の原1-104-416
TEL 047-311-0886

第18回 図書館総合展 見聞記

報告 塩崎 俊一

2016年11月8日(火) パシフィコ横浜を訪れ、多数の分科会のうち二つに参加しました。午前中は「国立国会図書館の基本的役割」、午後は「残された紙の残された問題を解決する」のテーマの分科会でした。

午前の分科会は始めに、今年度から館長に就任された羽入佐和子氏から国立国会図書館の沿革が示されました。続いて、国会法第130条に基づき、自分達の使命は国会議員の調査研究に資する図書館サービスを提供すること、加えて日本の民主化と世界平和に供する組織として、内なる平和なくして外的平和なしと力強く語られました。そして、時間と空間を越える知的基盤としてのデジタル戦略を進めると共に、中期ビジョンとしてユニバーサル・アクセス2020を掲げ、その為の利用環境・組織力・連携・情報発進を整備すると言明されました。

次いで三つの部門の担当者から、それぞれの方針と展望が報告されました。

①立法調査サービス

190人のスタッフで逐次刊行して来た累計資料から更に信頼調査と予測調査を重ね、一千万の中古資料の更新も視野に進める。

②書誌作成標準化の歩みと将来

書誌データに一定のルールで標準化を図り、目録規則を作る。現在累積570万件の図書・非図書刊行物があり、人名・団体名も120万件に達する模様で、31年からのデジタル化、2002年にホームページ立上げ、将来NDC新訂は10版まで行く見通しだ。

③電子情報部から

国立国会図書館のデジタル戦略として、260万点のデジタル資料を著作権者らと協議会を結成画像とメタデータを閲覧利用と複写利用に可能にして、大学図書館にも700館に提供している様だ。インターネット資料は、収集保存事業WARPを立上げていて、昨年末から電子書籍の実証実験を始めて、深化型知識の促進に努めている。

以上3部門の仕事内容がしっかり伝わり、流石にプロだと敬服しました。尚、電子情報につ

いて報告された川鍋道子さんは「おーい図書館」会員で、2009年の国立国会図書館見学の際にも大変お世話になりました。

午後の分科会「残された紙の残された問題を解決する」の「紙の問題」とは、印刷媒体の紙が皆無にならない限り、複写とILL（相互貸借）は必要であり続け、著作権に係る問題の解決が条件となる。この点に関する経過と論点整理の説明があったが、実態は冷静且つ論理的な交渉が阻害されており、その要因が権利者側のやり切れない苛立ちがあり、図書館側は感情的反発があり、各々の組織内も意見不統一と報告された。

要は出版不況と言われる長期的な減少を遠因としているが、ここで登壇された常世田さんは、'90年からの生活財の落ち込む分野で、図書売上げは26%減だが、他はそれ以上の減り方で、'80年代に戻った状態だと数字で示した。利用率は、対人口比からみて高い自治体は塩尻市17%、堺市11.2%、図書館から本を借りない9割の国民は本も買わないのだと喝破された。本質は情報の共有化であり、情報は誰のものかの視点であり、社会的コストを誰が負担するかの論点を明確にする事と締め括られた。

分科会の後、展示ホールで150社・団体のブースをざっと見学。オヤ？と目についたのが、福岡県北東部にある田川郡の小規模自治体「福智町」が2017年春に開館予定の図書館づくりの視点だ。展示してある模型を見ると、まちづくりの拠点を意識した構造。日本一の図書館を目指すとのこと。因みに、図書館長は若い女性だそうです。

第22回 千葉県内図書館関係市民団体 連絡会

報告 青木和子

2月4日(土)、市川市立中央図書館集会室で開催されました。参加は又団体（市川・市原・浦安・君津・佐倉・千葉・松戸）22名。担当は市川図書館友の会でした。

前半は、石井ひろ子氏（千葉県議会議員、「図書館友の会きみつ」会員）の講演。

千葉県立図書館の今後の方向について

◎千葉県立図書館の概要

※県立図書館は計3館

①中央図書館…千葉市に在り、延床面積6171㎡、蔵書冊数86万3千冊。職員数41人(正規33人、非常勤8人)。大正13年創立。現施設は昭和43年竣工で築47年。老旧化・耐震不足で一部立入禁止のため、現在利用できるスペースは全体の約70%。千葉県関係資料・児童サービスが充実。千葉県公立図書館協会と連携した支援・職員研修等を実施。

②西部図書館…松戸市に在り、延床面積3261㎡、蔵書冊数26万9千冊。職員数30人(正規22人、非常勤8人)。昭和62年創立。自然科学・技術系資料が充実。障害者サービスを推進。就職支援や健康医療など課題解決支援等の講座実施。

③東部図書館…旭市に在り、延床面積3590㎡、蔵書冊数27万2千冊。職員数27人(正規18人、非常勤9人)。平成10年創立。文学・歴史分野の資料が充実。小規模図書館や図書館未設置市町村の読書施設(公民館図書室など)への支援。

県内公立図書館の現状は、県内37市16町1村のうち、未設置自治体は3市11町1村。千葉県の自治体図書館の設置率は全国最低レベルであり、市は91.9%(全国45位)、町村は29.4%(全国47位)。このような状況下、県立図書館では搬送ネットワークにより、県内全市町村の図書館や読書施設、県立学校、特別支援学校などへの委託巡回や宅配で蔵書の協力貸出をしている。

市町村立図書館職員を対象として初任職員研修・中堅職員研修を行い、図書館長協議会を組織している。また、レファレンス研修や児童サービス研修会・地域行政資料研修会・課題解決支援研修会・障害者サービス研修会、更に、大学との連携研修会・学校図書館運営研修会を開催している。

◉千葉県立図書館の整備に係る検討等の経過、および、中央図書館の現状について

H.2年…千葉県社会教育委員会会議から「生涯学習における県立図書館の整備について」の答申。新県立中央図書館(仮称)及び地域図書館の整備等が提言された。

H.6年…「県立図書館基本構想」として、新中央図書館と3つの地域館(西部・東部・南部)の4館構想を策定。

H.18年…耐震診断で、中央図書館の耐震不足が判明。

H.23年…「県立図書館の今後の在り方」を県教育委員会が議決。

中央・西部・東部の3館体制決定。
H.25年…中央図書館改修計画事前調査の結果、特殊構造のため改修困難と判明。
H.28年…《1月》県教育庁内に「県立図書館整備方針検討プロジェクト・チーム」設置。整備の方向性の検討開始。《2月》「千葉県公共施設等総合管理計画」策定。長寿命化（80年）、総床面積は15%削減とする。《5・6月》中央図書館の耐震不足箇所を一部利用制限し、一時休館。《7月》利用再開したが、一部は立入禁止。「公の施設の新見直し方針」策定。現行の県立図書館3館体制について、その役割や今後の図書館を取り巻く状況を踏まえ、機能集約化等も含め、継続して検討を行う。

⊙千葉県立図書館の今後の在り方について

H.23年策定の「県立図書館の今後の在り方」は5～6年毎の見直しが必要なので、H.28年策定の「総合管理計画」及び「公の施設の見直し方針」を踏まえて新たな「今後の在り方」をじっくり考えて構想を練るべき。今がそのチャンスだ。

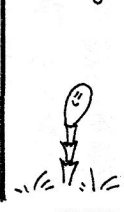
県教育庁内に設置された「県立図書館整備方針検討プロジェクト・チーム」が、利用者へのアンケート・市町村教育委員会へのアンケート・市町村図書館へのヒアリング・学校へのヒアリングを行ったが、それに加えて外部の有識者も関わっての検討が必要ではないか。

講演の最後に石井県議は、「県民との意見交換の場を持ちたい」と締め括りました。

後半は、各グループからの報告と意見交換を行いました。

今回もやはり指定管理者制度についての問題が多く聞かれました。図書館など教育・文化行政への逆風が吹いていることを感じますが、それは個別の自治体の問題と言うより国の政策そのものに、問題があるのではないでしょうか。

次回連絡会は、7月初旬に千葉市で開催の予定です。



松戸市担当部署訪問

青木和子

昨年10月26日(水)には宮下図書館長、11月4日(月)には伊藤教育長、今年1月19日(木)には本郷谷市長を訪問しての面談が実現しました。

図書館に関して希望の持てるお話を、それぞれの方から伺うことが出来ました。

今後も更に、教育委員会・まちづくり部・公共施設再編課などの動向にも注目し、パブコメの機会等も生かしたいと思っています。